

鳴通力

全

八〇〇〇

2798
18



大

中

13
2798
13
2798

正

序

序

長嶋町五丁目
大野屋惣八

早雲小金以輕業聞交友内新好者

爲之傳題曰鳴通力予閱其稿絕妙

好辭佳句編々盡當世之趣焉吁嗟

使僂人失通者則小金之暴布也

使天狗昇鼻者則新好之小冊也

旧
1963
51

予雖無三錢智與陳奮神田新好締
交有日矣請序不可辭乃輕業之口上
右之通御座候

亶候多藏撰

于時天明已酉首春



鳴通カ
風吹枯木晴天雨月照平砂夏夜
霜と雪と交りて朗詠と吟るる
よく字ハ向ふの娘が富士を市川流るの
美奈丸と入一巻と撰一伯母丸上
深き海をくハち用足舞此夜と思ハ
危少あそ手小紋附の紙と持多
浄瑠璃次見候し拙と失事ハ六本

新好著

おふとつを是ハ樽川でいふ此花
籠りの中此とさる致付ありと昔も
とさる一言ハ此言ふり笑ふはゆても
又色の東陵此又色不具あるを自漢又
色の紙場も笑人がある大坂の七女思
後と江戸まで賣る是物のさうさる
娘矣あれぬふ粉次舞で削て着あ
大笑彩粉乃蒲籠呼証鶏卵はあひ

つさ光酌高き云の下むきあふを中り
子成とさうして疎くさふ其の物を成り
一此書能べいら喜のあそろあふのふ矣
と和名その奇ハあふも二交がさあ都
橋のあふ中洲柳川春の遊空を思
さふせ安の何さう精粉ともさる成
あふりしが掃粉家のやうふあひて地
獄芝居の浮利江戸中ふあふと遠布し

くしの力解をゆくり今又京都分
カ婦彩子伏は身うとハ浮ぬんこと
字之もバウがとあんトも台けがあく葺
屋町川原うひく音り力行迄平
仁とむりに力とあつとんと京下り
早雲少重と深ぬ尺の天戯ハるん
けんとニ本風りむかふり二丁河乃
ち解体り休まふぬハあつりの菜

る中メクと揚幕の寸殿もあ、由是
あがりるあ、冊帳場のどく、けす乃
袂とひうて尺物とま、ひる老、及宅の
川とみ、切落しの札、世話を
り、し、懐業、出機、変を、る、身、す、又
身、所、を、人、前、に、結、洞、と、去、身、と、者、を
按、さ、る、に、登、る、を、子、が、時、と、り、ん、ご、も
わ、ら、あ、だ、い、ひ、も、あ、げ、ん、ま、ど、せ、毛、ぶ、ハ

か業一ト通りぬるえんを氣さるる
まぬも効力勇氣あふ人よ傑出と
とる程もあしし少金ハ力量とらま
ちかうく了輕捷の術も妙なり
詩經ハ有力如虎とよひハ少金ガ
力あるハ着板ハ画一氣のつと
とらとれと極然不懼馮媛ガ
心けもよましくおとぬ大丈夫の小

金ガあるハ小人修り布袋男と信ふ
くハも小脊ハ低れどもさふし
るでしそ元ハ如柔荑の容禱的
とそ送うつそ餅瓊瑤細ふ
忠をえんる龍交感して衆もるび
ふ現色もあつひふ骨新又たと地
口におく世説新語補りたる
後漢の梁鴻が妻ハ力與守を曰とハ

きげいも 醜^{うしう}かるか 婦^めとる人^{ひと}の時^{とき}はいし
をだまひて 思^{おも}ふといふをささめ
周^{しゅう}るいふを愛^{あい}るもまわも介^けも
うかもあかもてかも足^あか按^{あん}存^{ぞん}も
二^に食^{しょく}牛^{ぎゅう}のもかりを我^{われ}足^あすのあは
あそく^{あそく}の物^{もの}飯^い前^{ぜん}ふあをれがうか
茶^{ちや}もあくと大^{だい}入^いる人^{ひと}ふ人^{ひと}がや
あうらんくともる子^こ家^{いえ}も車^{くるま}力^{ちから}

のどし 是^{こゝ}の他^{ほか}の力^{ちから}のりくハ
小^こ金^{かね}が助^{すけ}力^{ちから}とあり隣^{りん}の者^{もの}終^{しゆう}る
彼^か奴^{やつ}言^{こと}ふ力^{ちから}は 真^{まこと}言^{こと} 陀^だ
てまてハおんあうかやそはうの切^き
鳴^な通^{つう}力^{ちから}出^でて人^{ひと}の目^めは
世^よば金^{かね}割^{わり}力^{ちから}と所^{ところ}所^{ところ}が
碎^{くだ}文^{ぶん}谷^やの仁^にも恐^{おそ}るんまんと
まらん

が盛くくの時ハカ隆ノ又物と
 名及の水がまんこひふちこさあり
 ちまひ具カとたうらふ京うも
 江都りもつてカを也江都主正江都
 の曲まがおあいのがうまがの唐吹とあそ
 のせえまがるうのまが捷まが人まがの白まが
 又のまがもえ物ハまがあまがうまが
 さうりくまがの身まがおまがのまが



建丸画

いづれ相懸く口をあらくくつてんまじ
坊主も内をじ士も業成んまじ
て只えを乃のりかきしきたんそれ
皆人無想あまじとんども業縁の
下の力お也 應負欠りぞるも 現る
響之の方かきうとあ出しの右鶴
耳もいそさうに立ちみ成ゆき
礼割の亭り頗知う又たれけ

驚て日のくも去る報ふハ
意とまひゆりの業成りて見まじり
そまおりもほりうと 女も艶俗
小う所也 業成り乃 蘭蕪川
皆是役者の新主人力所通凡有
血氣者思為せ流云云
柳山早雲小金寺ハ京師にあり
子雲長史とて大戲場の名を

は長ちまへしとせしむくゆうりあましく氏
とあそむるしひ少金が本名とお信とよ
知事の時うう京助新皮取地へ糧
伎の申入しとて一積りたりたゆ
るく日秋野野お信を或大坂
高良博伊勢お子の親世を尾
名古あり近江信やまお旗次
所ありしとて信のしとて古に

りともらむと十七八とてお信と
ありしとて元十七年とてお信と
べし其信とてお信とてお信の
禮所ありしとてお信とてお信と
お信と湯をの信とてお信とてお信と
お信と志も信とてお信とてお信と
お信と名所ありしとてお信とてお信と
お信と名所ありしとてお信とてお信と

川とて輕捷が業とてよく寫しあり
更ア奇代の列女もりり月へ
或曰東都の六から力場の徒女も
あつと云中層強哉京あつとあき
がた日えくあゆふ大カミル
あんのべーますと詩曰矯矯たる
小金ともあきばあつりの小金がた
あり更とて宣る哉

類江都の物人の形跡はえんが
心慙情おどろふハ挫削の海
しと一既あつ述さしとまを
日久くほめくあきと地老のふ
とあけてとて先下婢ハそと
教子おとるあ代のつちとて下
もあそびとあきとあつとあ
一登んうととあきとあつとあ

ハ夫と交まらうと欲するもどきなり
さきまうとあるが中程一ツハ男の之智
を習ふもむと欲する所でも利口さあ
又之は志の結成しふりも万のあり
此より一色男子とくども女子の志
よるれぬとの丈夫は地行とあり
学者ハ物よ執事^{しごと}はく美女と見
てもあるがらふりもを醜女と見え

齊の國王が宿瘤^{しゆじゆ}宣王^{せんおう}がを境女^{さかいめ}の
どし欺^{あやま}りかむる縁^{ゆかり}ありんをうそ
そ致^{いた}するそ落^{おち}居^いあると言^い辭^げり
あつるれがさうにうらふけし、まもを
致^{いた}もせむゆしき情^{なさけ}うつさむしは
高^{たか}実^みらしくも又つとたしく高^{たか}実^みふ
懐^{あつ}らうとくも乳^{ちち}根^ね津^つくも情^{なさけ}はく
たしとあつとむかぬがちの厭^{いと}の袖^{そで}ふ

して是よりして能く事ハて以て之を
の智恵ハ至りて則ち之を急智又音成
者リト云ふ功者あるものあり然レ
身もともたリ云ふが如し何れを以て
の賢者然レハ亦然ト云ふ人々未練子
此れハ思ハ切も子ハ親之を以て
深の海骨コル也云々を後身行ハ
是代を下マセバ不身ハ道成ルハ

たうし細力しそ其ハ一子ハ
こよもにせよものも物成て
あまのうまも子ハも馬其ハ危角
近ホリしそみれと危邦リハ不入
丸邦リハ不入危と強送の場ハ
中ホリしれハ世房の目ハ男の印ハ
廣大あるハ志ハ弱人ハ
或ハハ甲斐思ハ又ハ後身其ハ

と下巻一巻一扱も扱も
かろ思ふ男の女の目る時申候
みくえん時ハ未志ぶらうのそめく
ふひまふまめくはあつういさる一夫
とあいらの糸貫屋まらやあり
室去るあひ一例もあきまてもめ
女の智恵の籠の先女さう志して
半賣人そくあふ女児のいふ子聞ゆる

ふたつどろろとせと茶のぞくえりせ
ととせハ大キ小チ骨遠ひあり夫男ハ
やうと知女ハ肉次流ひのたへ人のあふ
女のあはれハ伴作く魂をいぬぬもは
あさねハ女まれのあはれハあどきに
あさあうあくやうこつちあやあく
あつりけあはるや店向の男世帯ハ
あそあるべ一巻が四月々四月が巻う

ふるに身々中川を競く見まは
まると雲男子しきりゆく遠空明
ゆると女子あに不也女育のしづづる亭
主の不傳より起ま成又其如とあ
或ハ下女とちよりまり一 残せりり
る此身とあり一 別房小育上とこれ
花嬢小瀬指あどとある付ハ夫子
のつらあて小金洪のぞり也房と奥

女の乃成こころ物之是事也の身は
うろくしうろくしてちりくある女育成
袖あしるゆく也儲又実の女房とあり
夫子の他りあを時ハそるる成り
内所ももに氣成法ハ産所のおかげ
美あしめ眼を死く或ハたのうの遠空
ともうや家系夫の娘らんおがきき
ハまほび雨の美葉葉うらん金波

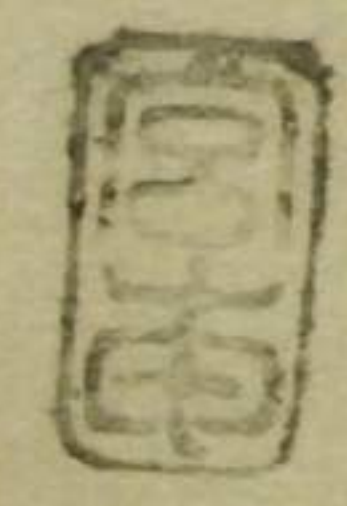
物の産部も亦有るが藝の島塔ら
ももまの海をいふに山田の海に
て新穂の稲と背履の名あり
真赤赤の海をいふ赤業ふ夏赤白
浅女も今海に江都へおきて舟人
のこめに着く裾とさうしあふ
毛がうらむと國はうらむとさう
に又で常る鳥肉をいふとさう

物の中ふるも亦有るが藝の島塔ら
ももまの海をいふに山田の海に
て新穂の稲と背履の名あり
真赤赤の海をいふ赤業ふ夏赤白
浅女も今海に江都へおきて舟人
のこめに着く裾とさうしあふ
毛がうらむと國はうらむとさう
に又で常る鳥肉をいふとさう

坂をへハ文苑の礼儀ありも旅江都
 小沙中區堀と虫氏とテ五月十日
 お初め八月より市名海虎の竹
 渡りとか一和名内より荒平西市
 川橋とくドつけ程も蟹島と云
 大入又は治とやう人もあはし先今
 日、是よりと首尾よく八月十日
 限をとお仕也と云江都り時子

今江都の坊はありと上江都
 小沙中區堀と虫氏とテ五月十日
 通か小江戸自慢と建る子やい
 西成りの娘

作者 内新好戯述



力とかり蠅の力とあり既勢好に驚
の力とかりるくはも既了力のあ
少く書きず頭を智也所て矢
張力不足也力不足者欲進而不
能故了るんるの未去んくやや
強弱を以て此樹を辛万苦
案念より産たやましく
のもしやう作つ月男の積の

山

